



## 特集 地域の歴史をひらく

今年度の第5回飯田市地域史研究集会では、「地域の歴史をひらく」をテーマに掲げてシンポジウムを開催します。そのねらいと内容について説明します。

### 地域把握の方法

飯田・下伊那は、広大で美しい自然にめぐまれ、ふつうの暮らしを営む人々が主人公となって、豊かな歴史を培ってきました。しかし近年では、過疎化や高齢化、農地山林の荒廃、中心市街地の空洞化など、地域をめぐる様々な問題が深刻になっています。地域を守り、再生し、よりよくしたいと願う多くの人々にとって、これらの問題に向き合うためにも、地域の歴史や文化を再発見し、これに学ぶことは切実な課題になっていると思います。

飯田・下伊那には、戦前からたくさんの地域研究をこころざす団体があり、多くの成果を挙げてきました。また2003年12月に発足した飯田市歴史研究所は、飯田・下伊那をフィールドとした地域史研究の新たな拠点として、調査や研究を積み重ねつつあります。しかし地域の枠組は何か、それは過去から現在にかけて、どのように変わってきたのか、といった問題は、まだ十分には深められていません。

### 地域の歴史をひらく

歴史研究所では2002年7月、開所に先立ってプレシンポジウム「地域の歴史をひらく」で、地域史研究のめざすべき方向について議論しました。また昨年6月には、ラウンドテーブル「伝統社会と地域」を開催し、具体的な事例報告をもとに地域把握の方法を考えました。これらをふまえて、今回は各方面の専門家や地域市民の方々とともに、地域の歴史をひらくための方法について、様々な角度から包括的に検討し、地域史研究事業の今後の指針に活かしたいと考えています。

8月24日(金)から26日(日)にかけて行われる第5回飯田市地域史研究集会では、地域把握に関する

研究を常にリードして来られた板垣雄三さん(イスラム史・東京大学名誉教授)をお招きし、シンポジウム「地域の歴史をひらく」を開催します。またそれに先立つラウンドテーブルでは、4つのセッション「地域史の方法」、「学校と地域」、「生活世界と地域」、「地球規模化」において、地域研究の実践に基づいた報告を用意し、地域史や地域把握をめぐる様々な問題について、議論したいと思います。

この研究集会が、地域の歴史をひらく大きなきっかけとなることを希望します。多くの方々の御参加をお願いします。

## 第5回飯田市地域史研究集会

開催期間：8月24日(金)～26日(日)

シンポジウム講師 板垣雄三さん

1931年、東京生まれ。東京大学名誉教授・東京経済大学名誉教授。専門は中東イスラム研究。2003年文化功労者。著書に『イスラーム誤認』(岩波書店、2003)、『歴史の現在と地域学』(岩波書店、1992)、『石の叫びに耳を澄ます』(平凡社、1992)などがある。



### 主な内容

24日 午後1時半～25日 午後0時半

(会場：飯田市役所りんご庁舎)

ラウンドテーブル「地域史の方法」、「学校と地域」、「生活世界と地域」、「地球規模化」

25日 午後1時45分～

(会場：飯田信用金庫大会議室)

シンポジウム「地域の歴史をひらく」

講演 板垣雄三さん

報告 原董さん(前・飯田下伊那地域研究団体連絡協議会会長)

26日 午前9時半～

(会場：飯田信用金庫大会議室)

地域の歴史・文化に関する研究報告会

第35講座 6月23日(土)・24日(日)

## 地域の蘭学と飯田の文化

講師:青木歳幸さん (佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授)

江戸時代、我が国の西洋文化流入の窓口は、飯田から300里以上離れた長崎でした。そこからもたらされた西洋文化を蘭学または洋学とよびます。蘭学がどのように発達し、飯田に伝えられ、どう地域に展開し、どのように近代へ影響していったのかを考えます。上方からの商品流通の展開と飯田の繁栄、寺子屋の普及、知識人の活発な交流を背景として、飯田からも多くの文化人が輩出されました。なかでも、博物学者市岡智博、下川路村の蘭方医関島良致らの活動を軸に、飯田・下伊那地域における蘭学の広がり、その果たした役割を明らかにします。

- 時間 1日目(土) 13:30~17:00  
2日目(日) 10:00~14:30  
※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。
- 会場 歴史研究所 3階会議室
- 募集人員 各講座30人
- 受講料 資料代として500円(2日間分)

第36講座 7月21日(土)・22日(日)

## 日本社会と相撲

講師:新田一郎さん (東京大学大学院法学政治学研究科教授)

大相撲が「国技」を称するようになったのは明治末年ですが、歴史を遡ると、相撲はそもそも「日本」という政治的な枠組と不可分に結びつきながら成立し、観客の観覧に供される技芸として発展してきました。本講義では、相撲の歴史について単に趣味的に語るのではなく、相撲に切り口を求め、日本社会における「伝統」のあり方について論じたいと思います。

講義は、①「大相撲以前」のこと、②大相撲興行の成立と展開、③大相撲興行における「伝統」の創造、④アマチュア相撲の展開と大相撲の変容、についてお話しします。

- 申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、歴史研究所へお申し込みください。  
※ファクシミリまたはEメールでお申し込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記して下さい。  
※2日目の昼休みには、講師を囲んでの昼食交流会を行います。(会費1000円)

## 月例研究会

月に1度、研究員等が研究内容を報告し、参加者が自由な意見交換をする研究会です。事前の申し込みは不要ですので、気軽にご参加下さい。

### 6月の月例研究会 明治期における飯田町の学校建築

追手町小学校に残された資料などから、前身の飯田学校・飯田尋常小学校の建物がどのように建築され、当時の社会と関わっていたかを考えます。

- 報告者 江下以知子(東京大学大学院博士課程)
- 日時 6月30日(土) 午後2時~4時
- 場所 歴史研究所 研修室

### 7月の月例研究会 読書会『歴史の現在と地域学』を読む

今年度の研究集会のテーマに関する重要文献として、板垣雄三さんの著書の読書会を行います。事前に『歴史の現在と地域学』(岩波書店,1992)を読み、ご参加ください。

- 日時 7月28日(土) 午後2時~4時
- 場所 歴史研究所 研修室
- ※詳細は歴史研究所へお問い合わせ下さい。

### 歴研地域史講座

## 地域を学ぶ 飯田・下伊那の歴史

研究所スタッフが、分かりやすくお話しします。いずれの講座も歴史研究所3階講義室で行います。

### 「飯田町と上飯田研究の課題」

講師:多和田雅保 研究員

6月15日(金) 午後7時~8時半

今から70年前にあたる昭和12(1937)年、飯田町と上飯田町が合併して飯田市が誕生しました。2つの町は中世では「飯田郷」として一体でしたが、16世紀末の城下町建設に伴って分離し、約350年ぶりに再び合体したのです。この間飯田と上飯田は複雑な関係を取り結んできました。その変遷をたどることは、下伊那の都市と農村の問題について考える上で多くのヒントを与えてくれます。それぞれの地域の現状に注目しつつ考えます。

### 「明治期座光寺における学校運営と地域」

講師:多和田真理子 調査研究員

7月13日(金) 午後7時~8時半

歴史研究所ではこれまで、座光寺村に関する史料について、役場文書などの調査を続けてきました。その成果の一端として、主に明治期の学校運営と村政とのかかわりに焦点をあてて、具体的な事例をお話しします。村会議事録、学校費徴収簿などの史料をもとに、地域によってどのように学校が創られ、維持されていたかを明らかにしていきます。当時の様相を探りつつ、現在につながる問題にも目を向けていきたいと思ひます。

### 「飯田城下図を読む」

講師:吉田伸之 研究部長・東大教授  
8月3日(金) 午後7時~8時半

飯田城下町を描く絵図をいくつか取り上げ、描かれている内容・情報を読み取りながら、城下町という特異な都市類型の社会や空間のあり方を考えます。また近世中後期において、飯田藩や下伊那全体にとって、飯田城下町がどのような位置を占め、また近隣の小都市や在地社会の人々にとっていかなる存在であったのか、政治支配、経済、文化などの点から検討します。さらに、城下町以外の都市や、他の城下町との比較も試みたいと思ひます。



## 集落の歴史もその時代の人がつくる 宮内博司さん（下久堅柿野沢）

柿野沢を語るには、昭和初期の公会堂づくりから始めなければならない。明治、大正から60年間に亘って集落内に2ヶ所の神社があったことから、北部、南部の和が取りにくい所であったが、当時の人々によって集落の和をめざした公会堂づくりが始められた。集落内を北と南から歩数で測り、その中心に手作りの公会堂が建設され、集落が一つとなつて地域づくりが始まった。

戦後の昭和21年、住民の和が「柿野沢の道作り運動」として継承され、財産割りの資金と労力奉仕によって、手弁当道路12,000メートルが完成した。また『柿野沢における道普請の歩み』を集落の歴史書として発行も出来た。

昭和60年には生産者組合を組織して現在も活動



柿野沢構造改善センター。公会堂から新しく建替えられた。平成2年5月4日竣工、建面積212.9㎡、工費29,870,000円。

している。平成2年には永年培った公会堂も老朽したので農業構造改善事業によりセンターを建設した。設備調達品も当時公会堂造りに苦勞した老人たちがまたまた多額な浄罪を據出して、魂のこもった建物として広く使われている。



## 文書館のお仕事

前澤 健 歴史研究所客員研究員  
長野県立歴史館勤務

早いもので飯田から今の職場に異動してから1年余りすぎました。今勤務している長野県立歴史館は、博物館のイメージが強いのですが、実は「文書館」、「考古資料館」、「博物館」の3つの機能を持つ複合館です。そのうち私の部署は「文書館」の機能を担う文献史料課です。文献史料課は、主に歴史的価値のある県の行政文書の収集・保管・公開を行うとともに寄贈・寄託された古文書の整理・公開を行っています。

私は、いわゆる「文書館」の業務にたずさわっているもので、よく行政文書などを収集・保管・公開することの意味について質問されます。その意義は、幾つかありますが、1つめは今を生きる私たちのためです。私たちが自分の住む地域を知るためには、過去の歩みを知ることが必要です。そのために記録を保管し、利用できるようにすることが大切です。2つめは、未来の人のためです。私たちと同じように未来の人が自分の生きる地

域を知ることができるようにすることも大切です。その意味では、今私の業務は、地味で目立たないが、未来を見すえたものだと思っています。

飯田市の各自治振興センターには、明治以来の行政文書が先人の努力によりきちんと残されています。これらは今、そして未来の飯田市民の財産です。また目を転じてみると、これらの行政文書は、行政職の方々の仕事の足跡です。作成された文書を保存年限経過後破棄してしまうことは、ある意味自分の仕事の否定になってしまうかもしれません。かと言って全部の文書を保存するのは、収納等の関係で不可能です。どの文書を残していくのか、大きな問題です。この他、文書館の仕事を進めていく上では、様々な問題があります。しかし今後文書館及び文書館の機能を担う部署の持つ役割は、ますます重要になるのではないのでしょうか。こんなことを感じる私は、日々アーキビスト化しているのでしょう。

## 歴研ゼミだより

4月・5月の内容

参加者のみなさんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史ゼミ 近世下伊那の民衆生活史	近現代史ゼミ 地域社会史入門－飯田町の記憶を探る－	現代史ゼミ（英語文献講読） 地域社会とグローバリゼーション
<p>■開催日 隔週火曜日</p> <p>■時 間 午後7時～8時40分</p> <p>■担 当 多和田雅保(研究員)</p>	<p>■開催日 隔週木曜日</p> <p>■時 間 午後7時～8時40分</p> <p>■担 当 田中雅孝(調査研究員)</p>	<p>■開催日 隔週水曜日</p> <p>■時 間 午後7時～8時40分</p> <p>■担 当 鬼塚 博(研究員)</p>
<p>4月10日 飯田藩における町下代の役割(下)</p> <p>4月24日 下伊那の蚕種販売業</p> <p>5月8日 古島敏雄「私の地域主義」を読む</p> <p>5月22日 享保21年山村上・下平入用割等出入裁定状</p>	<p>4月12日 年間計画策定</p> <p>4月26日 胡桃沢盛日記の活字化 宮本常一著『忘れられた日本人』の文献講読</p> <p>5月10日 聞き書き対象者の選定</p>	<p>4月18日 Introduction</p> <p>5月2日 Class Conflict and Cultural Consensus 1</p> <p>5月16日 Walmart: the high cost of low price</p> <p>5月30日 Class Conflict and Cultural Consensus 2</p>



### 市民ライブラリー1

## 『満州移民 —飯田下伊那からのメッセージ—』

飯田下伊那は、戦争中に全国で最大数の移民を満州に送り出しました。その半数は亡くなり帰国できませんでした。満州移民は現在の飯田下伊那にも影響を与えています。

本書は、1920年代から戦後にいたるまでの長期間の流れのなかで満州移民を通して地域の歴史を考えようとする本です。

サブタイトルの「メッセージ」は、満州に渡った方の想いを若い世代や多くの市民に伝えたいという希望がこめられています。幅広い世代、地域の方々に読んでいただければ幸いです。

B6判 269頁 定価1,200円(本体価格)  
編集：飯田市歴史研究所  
発行所：(株)現代史料出版



販売所 歴史研究所、市役所行政資料コーナー、市内書店  
(郵送希望の方は、実費にて承ります。)

問い合わせ 飯田市歴史研究所  
☎0265-53-4670

### 歴研日誌

#### 4月

- 3月30日 『満州移民 飯田下伊那からのメッセージ』発刊
- 3月31日 文化財講座「歴史的建造物」(川路公民館)
- 4日 座光寺・湯澤昭五さんより史料寄贈
- 6日 天竜社系取り女子社員6名の聞き取り調査
- 9日 「全国さくらシンポジウムin飯田」会場で書籍販売
- 10日 近世史ゼミ
- 12日 座光寺史料調査会・建造物調査(松本・安曇野・塩尻)・近現代史ゼミ
- 13日 731部隊罪証陳列館長王鵬さん来所
- 14~15日 飯田アカデミア第33講座「地域歴史学の試み」(講師桜井由躬雄さん・放送大学客員教授)
- 18日 現代史ゼミ
- 21日 月例研究会
- 24日 近世史ゼミ
- 25日 建造物調査(大鹿村・上村)・現代史ゼミ
- 26日 座光寺史料調査会・近現代史ゼミ
- 27日 追手町小学校所蔵史料調査・歴研地域史講座①
- 28日 伊那谷研究団体協議会講演(清水迪夫)

#### 5月

- 1日 追手町小学校史料調査
- 2日 現代史ゼミ
- 5日 泰阜村巡見
- 6日 下瀬・上松家調査
- 7日 和田穆さん聞き取り調査
- 8日 近世史ゼミ
- 9日 座光寺史料調査会
- 9日~10日 建造物調査(三穂)
- 10日 近現代史ゼミ
- 11日 歴研地域史講座②
- 13日 「信州飯田ふるさと会連合会総会」会場で書籍販売
- 16日 平沢鴻積家資料受け入れ・現代史ゼミ
- 17日 学習院大学文学部史学科学生等約100人来所
- 19日~20日 飯田アカデミア第34講座「農家の建築と養蚕」(講師藤井恵介さん・東京大学准教授)
- 22日 橋北公民館文書所在調査・近世史ゼミ
- 23日 長野県立歴史館行政文書調査
- 24日 座光寺史料調査会
- 25日 「風越山を撮ろう」実行委資料等寄贈
- 26日 月例研究会
- 30日 現代史ゼミ

■ 継続調査 森本信正氏所蔵史料・下殿岡区有文書・市瀬繁文書・岡田昭夫氏所蔵史料・上久堅小学校移管史料

### 6月・7月の催事スケジュール

6月	2007	7月
金	1	日
土	2	月
日	3	火 近世史ゼミ
月	4	水
火 近世史ゼミ	5	木
水	6	金
木	7	土
金	8	日
土	9	月
日	10	火
月	11	水 現代史ゼミ
火	12	木 近現代史ゼミ
水 現代史ゼミ	13	金 歴研地域史講座④
木 近現代史ゼミ	14	土
金 歴研地域史講座③	15	日
土	16	月
日	17	火 近世史ゼミ
月	18	水
火 近世史ゼミ	19	木
水	20	金
木	21	土 アカデミア
金	22	日 アカデミア
土 アカデミア	23	月
日 アカデミア	24	火
月	25	水 現代史ゼミ
火	26	木 近現代史ゼミ
水 現代史ゼミ	27	金
木 近現代史ゼミ	28	土 読書会
金	29	日
土 月例研究会	30	月
	31	火 近世史ゼミ

開所日 開所時間 午前9時~午後5時  
休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日~1月3日